



2005年:JOC竹田恒和会長が2016、2020年オリンピック・パラリンピック(以下”大会”)開催を主張。東京、福岡が2016年招致立候補。札幌は財政問題で立候補見送り。

2006年:東京が2016年夏季大会の国内代表に決定(石原慎太郎都知事)。「日本だから、できる。あたらしいオリンピック！」。2009年のIOC総会でリオデジャネイロに敗れる。トリノ冬季大会。

2008年:北京夏季大会。

2010年:バンクーバー冬季大会。

2011年:2020年大会に東京が再度立候補(石原慎太郎都知事)。「今、ニッポンにはこの夢の力が必要だ」。

2012年:新国立競技場のデザインコンペにザハ・ハディド案が採用される。ロンドン夏季大会。

2013年9月:IOC総会で安倍前首相が「福島原発事故はアンダーコントロール」招致演説。「お・も・て・な・し」。2020年東京大会決定。

2014年:ソチ冬季大会。

2015年:

7月 安倍首相・森会長らの批判により、着工直前にザハ案は白紙撤回され、再度コンペ。12月隈研吾案に。旧競技場の解体はじまる。佐野研二郎デザインのエンブレムがベルギーの劇場から盗用を指摘される。その後、街頭展開イメージの写真も無許可使用であったことが判り、9月に廃案。

2016年:

4月入管局長名で「オリパラ開催までに不補応滯在者らを大幅に削減」と「効果的な排除」を求める内部通達。

4月16日JSCが明治公園の野宿者に対し、強制執行で追い出し。

7月26日相模原市の知的障害者施設・津久井やまゆり園で元職員が19人の入所者を殺害。

8月2日小池都知事が就任。

8月5日リオ夏季大会開会式。21日閉会式。安倍首相がマリオのコスプレでトンネルから出る演出。

●8月21日「お・こ・と・わ・り東京オリンピック」集会 会場:千駄ヶ谷区民会館 86名参加

第1部 谷口源太郎 腐敗するオリンピック

小倉利丸 オリンピックと現代資本主義

鵜飼哲 動員イベントとナショナリズム

第2部 反五輪の会・オリンピックいらないネット・被ばく労働を考える-ネットワーク・学校現場から・監視社会問題ほか

主催:NO Welcome Tokyo Olympic Games 実行委員会(略称 お・こ・と・わ・り実)

●8月31日都知事への申し入れ 主催:同上

霞ヶ丘アパート解体。12月11日国立競技場着工、19年11月竣工。屋根はなく、サブトラックも聖火台もない。「日本の木材を使った」として木のパネルを貼った金属などを多用するが、基礎工事の型枠にはマレーシアなどの熱帯雨林を濫伐した輸入材使用。

2017年:

●1月22日おことわり集会「オリンピック災害おことわり！Read In Speak Out」

会場:千駄ヶ谷区民会館 140名参加

反五輪の会主催のデモ 神宮橋から千駄ヶ谷区民会館まで 逮捕者1名

1月23日「共謀罪がないとオリンピックが開催できない」と安倍首相が国会で答弁。

●2月22日 都知事への申し入れ 主催:おことわり集会 参加者11名

●2月25日 国際おことわりコンベンション I 会場:ピープルズプラン研究所

韓国からライ・ギョンリヨルさんを招いて開催 主催:おことわり集会 34名参加

●3月3日 国際おことわりコンベンション II 会場:千駄ヶ谷区民会館

リオからジセレ・タナカさんを招いて開催 主催:おことわり集会 40名参加

●4月8日 連続講座 第1回「五輪災害と共に謀罪」会場:文京区民センター

講師:小倉利丸 主催:おことわり集会

●5月27日 連続講座 第2回「神宮再開発による住民排除を許さない」

フィールドワーク 案内人:アツミマサズミ

●7月15日 連続講座 第3回「パラリンピックは障害者差別を助長する」

千駄ヶ谷区民会館 講師:北村小夜 & ますだらな

4月15日新国立競技場建設に従事していた大成建設下請け会社の23歳男性が自殺遺体で発見される。遺書には現場のパワハラが告発され、2月の残業時間は193時間だった。

8月17日晴海選手村(会期後に三井不動産等が分譲マンションに)の都有地払い下げが地価公示価格の10分の1以下と不当に安く、都民の財産を毀損しているとし、東京都に対して住民が訴訟。21年8月31日に結審。

8月17日トライアスロン会場:お台場海滨公園の水質悪化のためパラのテスト大会スイムが中止。下水流入で基準以上の大腸菌が検出され、トイレ臭い。その後、浄化のため神津島の砂やらアサリやらを投入。

●10月9日 連続講座 第4回「オリンピックはスポーツをダメにする！？」

講師:山本敦久(成城大)VS 岡崎勝(名古屋市教員)

●12月16日 連続講座 第5回「ナショナルイベントとしての東京五輪」

講師:天野恵一(反天連)&鵜飼哲(一橋大学教員)

2018年:

1月29日選手村で建設作業員がクレーンに挟まれ死亡する事故。

2月9~25日ピョンチャン(平昌)冬季大会。

●2月8日~11日 反五輪の会2名+おことわりんク2名が訪韓

韓国の平昌オリンピック反対連帯の方々と開会式を中心に反対行動を行った。

●3月27日 都教委署名提出・要請&記者会見 オリパラ教育の中止と費用の開示を求めた。

●3月31日 集会「3・11と東京五輪」会場:文京区民センター 150名参加

講師:小出裕章(元・京都大学原子炉実験所)&佐藤和良(いわき市議会議員)

●9月8日・16日 映像企画「オリンピックは誰のため?何のため?—過去の映像が私たちに語りかけること—」

会場:武蔵大学 コーディネーター:永田浩三 コメンテーター:谷口源太郎・天野恵一

第1回:通底する動員の構造1940~2020◆ニュース映像を中心に映像を読み解く

第2回:「政治」と「芸術」◆レニ・リーフェンシュタールと市川崑を読み解く

10月6日築地市場が閉場、解体され、会期中はオリパラ車両基地に。11日豊洲新市場が開場。

●11月20日~23日反トーチ引継ぎイベント

11月20日オリンピック開催地で何が起こっているのか 韓国・パリから

11月21日反オリンピックトーチがやってくる 平昌・東京引継ぎセレモニー

11月22日寒空上映会 渋谷美竹公園 主催:反五輪の会

11月23日反五輪湾岸ツアー

12月5日選手村で建設作業員が転落死。

12月フランス検察当局が竹田恒和JOC会長が招致活動での2億2000万円の贈賄を行ったとして捜査を開始。

●12月7日「2020年オリンピック ポランティア動員? おかしいぞ!」

『ブラックボランティア』著者 本間龍さんを迎えて 会場:文京シビックセンター

2019年:

IOCが総会で大会招致のルールを変更。招致の意向を事前に探り、個別に対話して内定。複数都市での開催も可能に。

●3月31日 学習集会「東京五輪施設建設と外国人労働者」会場:文京シビックセンター

講師:恵羅さとみ(成蹊大学アジア太平洋研究センター主任研究員、専攻:国際社会学・労働社会学)

●5月25日 映像企画「オリンピックと放射能」「復興五輪」という欺瞞

お話:倉澤治雄(科学ジャーナリスト、元日本テレビ報道局解説主幹) 会場:武蔵大学

●6月15日 集会「私たちはなぜパラリンピックに反対するのか」

お話:北村小夜・谷口源太郎 会場:大田区消費者生活センター

●7月15日 反オリンピックガイドブック『2020東京五輪に反対する18の理由』発刊 500円

●7月19日 天野恵一・鵜飼哲『で、オリンピックやめませんか?』亜紀書房から刊行

●オリンピック1年前企画

7月20日 新国立・湾岸フィールドワーク

7月21日 シンポジウム「祝賀資本主義とオリンピック」 会場:早稲田大学

講師:ジュールズ・ボイコフ(米パシフィック大学、政治学、元五輪アスリート)

報告:山本敦久(成城大学)/いちむらみさこ(反五輪の会)

7月22日 福島フィールドワーク

7月24日 1年前でもやっぱり返上!オリンピック大炎上新宿デモ アルタ前

8月8日ビッグサイト仮設オーバーレイ工事作業員が熱中症で死亡。

11月IOCがマラソンと競歩を札幌に変更要求。小池都知事は「涼しい場所なら北方領土でやればいい」と発言し、ロシアから抗議される。

●9月8日 「みんなで議論する! 東京パラリンピック ただし、アンチ」

会場:アカデミー茗台 講師:北村小夜&岡崎勝

●9月24日 おことわりんク+反五輪の会 24スタンディングを開始/東京駅モニュメント前等

(五輪開会式の予定日:7月24日を阻止する毎月24日スタンディング)

●11月17日 「オリンピックと放射能汚染水・被曝労働について考える」

問題提起:湯浅一郎(NPO法人 ピースデボ) なすび(被曝労働を考えるネットワーク)

12月中国・武漢で原因不明の肺炎が蔓延。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の初確認事例となる。

2020年:

●1月12日 「オリンピックの終わりの始まり—谷口源太郎さんの出版を記念しともに考える集い—」

会場:文京シビックセンター

1/14COVID-19国内初感染例。2月1日にダイヤモンド・プリンセス号での感染が判明。

●2月7日 東京オリンピック2020を問う練馬の会 発足集会

2/29京大前に『AKIRA』作中に登場する「東京オリンピック開催迄あと147日」「中止だ中止」「紛糾(原作ママ)」を完コピした巨大看板が設置される。大学が即撤去。

3/4双葉町の避難指示要請が解除となり、原発周辺の全地域で避難指示が終了。

3/16安倍首相がG7会議で「人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証として、完全な形でオリンピック・パラリンピックを開催する(初)」。

3/24安倍首相とIOCバッハ会長が1年延期の合意。東京都新規感染者数17人(以下特筆ない新規感染者数は東京都のもの)。

3/25日本政府、海外への渡航自粛勧告。翌日福島県楢葉町からスタート予定だった「聖火」リレー中止。

●3月26日3・26新宿行動

「中止だ! 中止! 東京五輪/聖火リレーをやめろ! 3・26デモ-聖火ではなく事故責任追及の炎を燃やそう!」

3・26福島行動 聖火ではなく事故責任追求の炎を燃やそう! いわき駅スタンディング

●3月28日 反オリンピック市民集会 郡山市総合福祉センター

トークリレー 鵜飼・谷口ほか、福島から蛇石さん・黒田さんほか

●3月29日 福島フィールドワーク

4/7七都府県に緊急事態宣言。新規感染者87人。

●4月15日 東京オリンピック・パラリンピック延期に反対し、中止/廃止を求める声明 発表

●6月18日 都知事選挙立候補者へアンケート

7/5都知事選挙で小池都知事が再選。

- 7月23日 集会「中止一択！東京五輪」 会場:日本キリスト教会館  
講師:武田砂鉄(フリーライター)&志葉玲(ジャーナリスト)  
メッセージ:谷口源太郎(スポーツジャーナリスト)&江沢正雄(長野五輪反対運動)
- 7月24日 デモ JOC前から原宿・五輪橋

8/28安倍首相が体調不良で辞任。

11/10オリンピックチケット払い戻し開始。払い戻し希望は2割弱。

- 11月13日 集会「いまこそ中止だ！東京五輪」会場:文京区民センター 参加者60名  
講師:鵜飼哲(おことわリンク)&藍原寛子(ジャーナリスト)
- 11月15日 中止だ！中止！Go to Hell オリンピックより命を守れ！デモ 参加者80名

11/15 IOCバッハ会長、コツ副会長来日。都庁前で反対派による抗議に対し血相を変えて「話がしたいのか」と詰め寄るも、自分は対話を拒否。翌日JOC前でも抗議は続く。

2021年:

1/7 四都県に緊急事態宣言(2回目)。新規感染者2570人。

1/9前後 NHK世論調査 今夏に五輪を・開催すべき16%(12月から-11%)・中止すべき38%・延期すべき 39%。

TBS世論調査 今夏に五輪を・開催出来ると思う 13%(-15%)・開催できると思わない81%。

1/14 スポーツ選手の特例緩和がなくなる。国際大会や強化合宿のための新規入国は停止。日本籍・在留資格のある選手の帰国時の自主待機免除がなくなり、大会出場や練習は禁止。

2/3JOC臨時総会で森喜朗組織委員長が女性理事を増やすことは「女性は競争意識が強い」「会議に時間がかかる」「組織委に7人はどうおられるがみなさんわきまえておられて」と発言。4日会見で発言撤回、辞任は否定「おもしろおかしくしたいから聞いてるんだろ」。

11日 森辞任、後任に選手村村長の川淵三郎を指名。

2/3愛知県で「聖火」ランナー予定のロンドンブーツ田村淳が森会長の「新型コロナがどんな形でも開催する」発言に不信感があるとして辞退。2月2日には森:「著名人は田んぼを走ればいい」発言も。

2/17丸山達也島根県知事が県内の「聖火」リレー中止を検討、五輪そのものも中止すべきだと記者会見。「開くべきではない、生活を脅かしてまで」。5/15,16に公道走行実施。

2/18組織委の「透明性のある非公開の会合」の結果、橋本聖子五輪相が会長に就任。五輪相は丸川珠代参議院議員。

- 2月20日 中止一択！東京五輪 JOC前アクション 参加者100名

2/24ボランティア辞退が1000人を超える。大会全体のボランティアは8万人を予定。パソコン等で有償バイトとして募集も。芸能人・著名人を含め、「聖火」ランナー辞退が相次ぐ。

2/26京大にふたたび『AKIRA』タテカン。大学当局が早朝に撤去。

3/6名古屋入管でスリランカ人女性収容者が虐待・衰弱死。事件発覚により入管への抗議が高まり、入管法改定を中止させる。

- 3月6日 中止一択！東京五輪 JOC前アクション&デモ 参加者70名

- 3月12日 晴海トリトンビル・組織委員会前金曜スタンディング 開始

3/17オリパラ開閉会式の演出を統括する電通・佐々木宏クリエイティブ・ディレクターが、2020年3月にチームLINEで出演の女性タレントをズタに見立てる演出案を提案していた(案は撤回)と、文春が報道。18日に辞意。

- 3月18日Jビレッジ周辺「福島はオリンピックどこでねえ」武藤類子さんほかリレートーク・アクション

3/25 福島県檜葉町・広野町Jビレッジから「聖火」リレースタート。帰還者ゼロの「帰還困難区域」双葉町では整備した駅前ロータリーだけを廻る放射能茶番リレー。各地でコカコーラや日本生命のスポンサー トラックがDJを乗せて先導。4月1日4県目となる長野県の沿道で抗議行動。「オリンピック反対」などの音声をNHKがミュート。4月13日大阪で公道走行中止。その後も沖縄など各県で公道走行は中止され、競技場などで無観客実施。

- 3月25日 「聖火」を止めろ！五輪は中止！デモ

新橋駅前SL広場前から出発 銀座・築地を経由 晴海トリトン組織委員会へ

3/31毎日新聞が組織委の業務委託人件費が最高30万円/日と報道。4月2日丸川五輪相は「こういう数字を耳にしたのは初めて」。19日衆院では「守秘義務で見せもらえない」。委託先はパソナと東急エージェンシー。

4/1組織委員会は、佐々木Dの前任の女性演出家による開会式案をスクープした週刊文春4月8日号(31日にオンライン版配信)に発売中止・回収、資料の廃棄を要求。文春は拒否。

4/6北朝鮮DPRKが「世界的な公衆衛生の危機」を理由にオリパラ不参加を決定。

4/25 東京都など10都道府県に緊急事態宣言(3回目)。新規感染者635人。5月11日までの予定が、東京は6月20日まで延長。蔓延防止等重点措置に切り替え。376人。

5/5札幌市内でマラソンテスト大会。沿道での観戦禁止だったが、多くの観客が詰めかけた。札幌市の新規感染者数は5月6日251人、5月13日には499人に。

5/6IOCが各国選手団へ優先接種するためのファイザー社ワクチンを調達したと発表。

- 5月9日 即刻やめろ！新国立競技場 GURUGURUデモ 参加者110名

5/14宇都宮健児弁護士がchange.org署名「オリンピック中止」35万筆を添えた要望書提出。7月2日開示請求により、都庁でなんの対応もしていなかつたことが発覚。

- 5月17日 ノーパサラン！バッハは帰れ！ バッハ来日抗議デモ 新橋～トリトン

5/22バッハ会長が「五輪の夢のためにわれわれは犠牲を払わなくてはならない」と発言。27日には「東京は過去最高に準備が整った大会」。26日にはパウンド委員が英紙取材に「アルマゲドンがない限り実施」。

5/24代々木公園でライブサイト設営のため樹木の剪定が始まる。反対署名が呼びかけられる。6月1日工事がはじまる。2日小池都知事が代々木会場は中止してワクチン接種会場とすると発表。6月19日東京都・組織委主催の4会場すべての中止が公式決定。

6/1オーストラリア女子ソフトボール選手団33人が来日し、事前合宿の群馬県太田市へ。受け入れの担当職員やホテル関係者のワクチン接種は困難と判明。

6/2感染症対策分科会・尾身会長が衆院厚労省委員会で「今のパンデミックの状況でやるのは、普通はない」と発言。丸川五輪相が「別の地平から見てきた言葉」とコメント。新規感染者487人。

6/7国会で菅首相は中止の権限について聞かれ「日本は主催者ではない」と答弁。

6/7JOC経理部長が地下鉄に飛び込み亡くなる。JOCは事故と説明し、調査しない方針。

6/8新国立競技場周辺の交通規制が始まる。8日はスタジアムの東側道路にゲート設置。その後封鎖は拡大。他会場周辺も通行止めや封鎖が進む。

6/9国会党首討論で菅首相が立民・枝野代表に対し、1964年五輪の思い出(東洋の魔女等)を6分45秒にわたって語る。

6/10IOC理事会が2032年夏季五輪の開催地をオーストラリア・brisbaneに一本化する内定。7月21日東京で開かれるIOC総会で提案する。現地紙が「当初予算3800億円をすでに1150億円超過している」と報道。

6/15コツ副会長(オーストラリア)が来日。3日間隔離措置。5月8日には「緊急事態宣言下でも開催」、6月11日には観客を入れるかは今月末に決定するが「私は観客を見たい、選手もそう思っている」と発言。

6/19 来日2チーム目となるウガンダ選手団の1名が空港検査で陽性判明。他全員はそのまま合宿地・大阪泉佐野市に移動。新たにコーチ1名が陽性(療養解除となった7月3日に再陽性)。また、同じ航空機の搭乗客からも感染者が出る。新規感染者388人。

6/20 選手村が報道公開。段ボールのベッドや金色の装飾をつけた便器などが話題に。外では抗議行動が起り、海外メディアなどが取り上げた。

6/21 IOC、都などの五者協議。オリパラの観客上限は「蔓延防止等重点措置が解除されたら」上限10000人に。

6/22 菅首相がオリパラ名誉総裁である天皇に「内奏」、24日宮内庁長官が「感染拡大を懸念されている」と「拝察」。

6/23 目黒区がオリンピック学校連携観戦の中止を決める。全国でも同様の動き拡がる。

### ●6月23日 開会式1か月前行動「オリンピックは私たちを殺す！やらせるものか[犠牲の祭典]」 6・23新宿デモ 都庁正面玄関から出発 参加者850名

6/29 東京都の「聖火リレー」前半7月16日まで、島嶼部以外は公道走行中止。6日後半日程も公道走行中止決定。新規感染者476人。

6/30 大会ボランティア7万人へのワクチン優先接種始まる。東京都から提供されたモデルナ製で、2回目接種まで4週間、抗体ができるのはその2週間後。丸川五輪相は「一回接種で一次的免疫をつけて」。新規感染者714人。

7/4 水戸市での「聖火リレー(公道)」でランナーに水鉄砲で水をかけた女性が威力業務妨害で現行犯逮捕される。

7/6 選手村勤務の組織委スタッフ2名がCOVID-19陽性。選手村内で、他2名と会食していた。陽性判明は7月1日以降だけで12名。東京都新規感染者593人。

7/6 警視庁がお台場上空100mに監視バルーンを浮上させ、運用開始。バルーンシステムはイスラエル企業が軍事用途で開発したもの。9月6日までを予定。

7/7 JR東日本・東海が期間中主要駅で手荷物検査を行うと発表。

7/8 五者(政府、組織委、東京都、IOC、IPC)協議で、オリンピックは一都三県の会場は無観客と決定。パラリンピックの判断は五輪終了後。同日、茨城県はカシマスタジアムのサッカーを無観客とし、学校連携観戦のみ行う方針を決定。新規感染896人。12日からの緊急事態宣言決定。同日バッハ会長が来日。

7/9 東京都教育委員会がオリンピックの学校連携観戦をすべて中止。同日「聖火リレー」が東京に到着。

7/9 オリンピック開催は「生存権侵害」として東京と長野の市民4人が東京地裁に「差し止め」仮処分を訴える。15日地裁は却下。

### ●7月9日 「バッハくるな！オリンピックやめろ！」組織委員会前アクション

7/10 福島県のオリンピック・ソフトボール、野球の無観客が決定。

7/10 チケットの払い戻しが始まる。20日まで。

7/12 東京都に緊急事態宣言(4回目)新規感染者502人。

7/13 東村山市のハンセン病療養施設「多磨全生園」で5市合同の点火セレモニー。列席した国分寺市長が新型コロナ陽性判明。家族がすでに発熱症状があった。

7/14 開会式、閉会式の概要が発表される。作曲の小山田圭吾は「中学生のころ障がいのある同級生を虐待した」と90年代に雑誌のインタビューで公言しており、ネットから炎上。16日小山田が謝罪文、組織委は続投の方針。20日に辞任。

7/15 バッハ会長が都庁訪問。小池都知事に誕生日の花束を贈る。あらためて「日本人へのリスクはゼロ」と発言。選手村で初の陽性者3人が判明。

7/16 ウガンダの重量挙げ選手が泉佐野市の合宿地から行方不明。出場選考から脱落。20日三重県で発見、大使館に連絡される。21日に帰国。選手は難民申請を希望していた。

7/16 組織委は濃厚接触者でもPCR検査陰性の場合は出場可の方針を決定。24日対戦拒否した場合は不戦敗となることが明らかに。

7/16 バッハ会長が広島訪問。8月に警備費379万円は広島県・市の負担だったことが判明。広島県新規感染者16人。

### ●7月16日 開会式1週間前行動

#### 「バッハ・コーツは広島・長崎に行くな！」東京デモ 参加者120名

築地市場跡集合→選手村→組織委員会へ

### ●7月16日 広島・市民らが「バッハは帰れ！」「広島利用を許さない」「東京五輪をただちに中止せよ！」の抗議行動。

7/17 武蔵野市立競技場での「聖火」セレブレーションに抗議し、爆竹を鳴らした一名が威力業務妨害で逮捕。その後起訴され、12月1日に保釈されるまで4ヶ月半の長期拘留。

7/18 選手村で2人がCOVID-19陽性。組織委は今後は詳細情報を非公開とし、公表するかどうかは各国オリンピック委員会が判断。本件は南アフリカのサッカーチームで、19日21人が濃厚接触と判定される。

7/18 迎賓館でバッハ会長らの歓迎式典。会食はなかったとしている。新規感染1008人。

7/19 千葉県印西市で事前キャンプ中のアメリカ女子体操チームの1名がCOVID-19陽性。同チームは21日から「選手村は怖い」として、ホテル宿泊に変更(規約では選手村への滞在が義務。日本選手の多くも選手村滞在を避けた)。

7/19 走り幅跳びパラリンピアンで、自己記録がリオ・オリンピックの金メダルを上回るマルクス・レームがオリンピックに出場拒否される。レームはCASスポーツ仲裁裁判所に提訴。

7/19 トヨタが開会式欠席を表明。20日には経団連、経済同友会、商工会議所、パナソニック、P&G、21日には安倍前首相も欠席表明。20日天皇は開会式に出席、皇后は欠席、観戦は中止する。海外首脳のほとんどが来日中止。

7/20 入国した関係者に南米で流行しているCOVID-19ラムダ型変異株陽性判明。政府発表は8月6日で、8月13日に初めて五輪関係者であることが報道される。

7/21 東京でIOC総会。2032年夏季大会がオーストラリア・ブリスベンに決定。バッハ会長が無投票で再選。

7/21 菅首相はウォールストリートジャーナルのインタビューに「止めるのは簡単」「挑戦するのが政府の役目」と発言。

7/21 ソフトボール予選が福島・あづま球場などで開幕。森前組織委員長、コートIOC副会長らが観戦。

### ●7月21日 あづま球場周辺で福島県民とともに「オリンピックより命を守れ」「汚染水流すな」抗議行動。

7/22 カシマスタジアムで市内の小学校が学校連携観戦を1000人で実施。

7/22 開会式総合演出の芸人・小林賢太郎が過去のコントでホロコーストを揶揄するネタがあつたことが発覚。イスラエル、サイモンウィーゼンタール・センターが強く抗議。即日罷免される。運営責任者・日置貴之の会見が記者に対して挑発的であると批判を集め。

7/23 夢の島会場でのアーチェリー女子予選でROC(ロシア)の選手が熱中症で意識を失い、搬送される。

7/23 柔道男子・アルジェリア代表選手が組み合わせ抽選で2回戦でイスラエルと当たることになり、「パレスチナ支持のため」棄権。イスラエルとの対戦拒否が相次ぐ。



7/23 昼・都庁で「聖火」の「到着式」:ブルーインパルスがカラースモークを使った飛行。雲が多く完全な五輪の形を撮影できたメディアはなかった。セレモニーの最終走者は中村勘九郎。

7/23 20時・新国立競技場でオリンピック開会式:NHKの最大視聴率61.0%で7061万人が視聴した計算。米NBCは1700万人が視聴、過去最低と発表。コロナ死者追悼の黙祷の最中にCMを入れたことが批判された。

「聖火」最終走者は大坂なおみ。後に森前会長が「純粹な日本人男性」として石川県出身の松井秀喜を要望していたことが発覚。

イスラエルがIOCに要望を続けていたミュンヘン五輪での「黒い9月」でのイスラエル選手団犠牲者への追悼が初めて行われる。

夜間に子どもの出演者が多かった、バッハ会長が13分の演説を行い「話が長い」と話題に。マスクの出番はなかった。

木遣りの場面で出演予定だった竹中直人が過去の障害者をネタにした芸を理由に22日に辞退を申し出ていたことが判明。

新規感染者1359人。

### ●7月23日 五輪は中止だ！抗議アクション

12:00～13:00 都庁前抗議アクション 参加者300名

18:30 原宿神宮橋 抗議アクション 19:00～ デモ出発 参加者700名

### ●7月24日 NOlympics TV 放送開始！ 全12回放送

7/24警備のため全国から上京した警官4人にCOVID-19陽性判明。

7/25最高気温34.4℃。有明会場のテニス・ジョコビッチ選手らが暑さのため時間変更を要求。29日から時間を繰り下げる。

7/25名古屋市内の地下鉄で窓からオリンピック反対のチラシをまいいた男性が逮捕される。

7/27アメリカ・女子体操のシモーン・バイルスが個人総合でメンタルの不調を理由に途中棄権。BLMで発言したことへのバッシングや、16年に発覚した体操チーム医師による性的虐待の被害者だったことが精神の不調の原因とされる。

7/28千葉県一宮市のサーフィン会場付近にパンクシー的な落書き(五輪とCOVID-19ウィルスとガスマスクを着けた天使)が発見される。競技は27日に終了。19年4月にも類似の落書きが見つかっていた。

7/28国立競技場で弁当4000食が廃棄されていたことが発覚。23日から25日までに複数会場で起きていた。31日IOCの会見で会場にいたボランティア学生が手を上げ「廃棄するならボランティアに配ってほしかった」と発言。ボランティアの食事は菓子パンなどで、とても足りないという。8月27日オリンピック期間中の弁当廃棄は42会場中20会場の集計で13万食と発表。会期後には選手村ビュッフェの食品大量廃棄も発覚。

### ●7月29日 潮風公園⇒お台場聖火台 抗議行動(反五輪の会呼びかけ)

### ●7月30日 組織委抗議行動 18:00トリトン前⇒選手村⇒19:00トリトン前

7/31東京都の新規感染者数4018人で過去最多となる。武藤JOC副会長「菅首相、小池都知事が五輪と因果関係がないと言っている」。

7/31ジョージアの柔道選手2名が観光目的で外出し、参加資格剥奪。

7/下旬 香川県警の派遣部隊3名が無断外出して焼き肉屋で飲酒・パパ活で帰される。

8/1首都高で大会関係者を乗せた車両が2台に追突し、当て逃げ。運転していたのはボランティアで「スタッフを送ることを優先した」と供述。9月30日に書類送検。運転中に腹部静脈瘤破裂が起こり臍臚とした状態で物損3件、追突2件を起こしていた。

8/1ベラルーシの陸上女子の選手がSNSでチームの方針を批判。強制帰国を命じられる。空港で帰国拒否し、ポーランドに亡命。

### ●8月1日 五輪競技抗議行動 16:00有明テニスの森集合 お台場「聖火」台抗議

8/3パラリンピック選手団来日の第一弾、フランスチーム13人が合宿地の金沢入り。

8/4名古屋・河村市長が表敬訪問したソフト女子選手の金メダルをかじる。「恋愛禁止か」「でかいな」などのセクハラ発言も。メダルはIOCが交換に応じた。

8/4ギリシャのアーティスティック・スイミングの12人中5人が陽性判明。選手村で初のクラスター。

8/5オーストラリアのラグビーチームが選手村の室内でベッドなどを破壊。帰路の航空機で飲酒して暴れたり吐いたりし、同国協会が処分。

8/6札幌のホテルでエジプトのサッカー選手が従業員に強制わいせつ。書類送検となるが、選手はすでに帰国していた。

8/6バッハ会長が「感染拡大させた根拠はない」「成功した」と会見で発信。新規感染4515人。

### ●8月6日 福島・広島・長崎と連帯する反五輪アクション JOC前 参加者50名

問題提起:鵜飼哲(おことわリンク) リモート発言:広島・福島・松本の市民より

8/7札幌で男子マラソン。106人中30人が暑さで棄権。日本選手は棄権せず完走し、車椅子で運ばれ救急搬送。深部体温は40℃を超えていた。

8/7竹田元JOC会長(19年6月まで)の弁護士費用2億円をJOCが負担していることが報道で判明。

8/8 オリンピック閉会式。オリンピック・オーダー(功労賞)金賞がIOCから小池都知事、菅首相、橋本五輪相に贈られる。新規感染4066人。

8/8パラリンピック・ガーナ選手団の1人が成田空港で陽性判定、隔離。他のメンバーはすぐ合宿地の福島市に移動。

### ●8月8日 オリンピック閉会式抗議行動/JOC(日本オリンピック委員会)前に集まれ！

東京五輪閉会式に抗議し、五輪廃止を求めるアピール行動 参加者150名

↑警察がJOCのはるか手前に規制線。

8/9バッハ会長が離日前に「銀ブラ」。丸川大臣は「本人が決めること」として問題視せず。

8/12パラリンピック「採火式」が各地でスタート。当初は相模原・やまゆり園も予定されていたが、批判を受けて中止。

8/13内閣官房参与・オリパラ推進本部事務局長が公用車でRIZAPに通い、400万円分のゴルフレッスンを無料で受けていることが報じられ、辞任。RIZAPはオリパラ予算の「beyond2020マイベストプログラム認証」を受けている。

8/13東京都の新規感染が5773人で過去最多。

8/15チーム内にCOVID-19陽性が出たため、濃厚接触でホテル隔離中のジョージアパラ柔道選手が、酔って警備員を突き飛ばし、骨折させる。

8/15 5者協議で緊急事態宣言発令中の3都県は無観客、16日静岡県も無観客となり、パラ全会場無観客開催決定。

8/16アフガンが参加断念。15日にタリバーンにより首都陥落、政権崩壊のため。

8/18都教育委員会、学校連携観戦が協議され、委員4人全員が反対意見。採決なしで委員長が「希望する自治体の希望する児童・生徒は観戦」を決定。24日江東区、25日港区が中止決定。最終的には新宿区・渋谷区・杉並区・八王子市、都立高校、埼玉県新座市・千葉県が実施。新規感染5386人。

8/18パラリンピック選手村の警備員が有明ビッグサイト近くの海で死体で見つかる。

8/20組織委はパラ開会式の演出チームの陣容は当日まで発表しないと決定。「混乱のおそれ」が理由。

8/20 6月14日に国立公園内のオリンピック横断幕8枚のビニール紐をほどいたり切ったりしてはずした大学生が器物損壊、威力業務妨害で東京地検立川支部に書類送検される。

8/20オリパラの入国者健康管理アプリの見積もりで「不適切」とデジタル庁が発表。仕様書作成に調達先企業が参画し、入札企業に金額を示唆。内閣官房IT戦略室の6人処分。

## ●8月21日「パラリンピック止めろ！」抗議デモ 新橋から銀座 参加者50名

8/23 IPCがパラ参加国は162国・地域、不参加が21ヶ国であると発表。サモア、キリバス、トンガ、バヌアツは経由地のオーストラリアで2週間隔離が必要なため、参加断念。北朝鮮DPRKはオリンピックに引き続き、感染リスクが高いとして不参加。

8/23バッハ会長が再来日。25日までホテルオークラのスイートに滞在。隔離期間不詳。

8/24パラリンピック開会式。国立競技場周辺で抗議活動をしていた1人が公務執行妨害で逮捕される。目中に飛行したブルーインパルスが入間基地周辺で低空でカラースモークを発したため、付近の車300台に付着(とれない)。新規感染4220人。

## ●8月24日 パラリンピック開会式 国立競技場前抗議行動 参加者70名

公務執行妨害で不当逮捕者1名、警官に突き飛ばされ転倒しケガをした人も。

8/25幕張メッセのパラ・フェンシングを学校連携観戦した千葉市の中学校で、引率教師2名が陽性。23日にはすでに発熱症状があつた。29日に事態を公表し、150人のPCR検査を実施、6名が陽性判定。千葉市は学校連携の継続する方向(その後中止)。

8/26選手村内で走行している自動運転バスが、横断歩道で視覚障害の日本柔道選手をはね、全治2週間の重傷を負わせる。バスにはオペレーターが2名いたが視覚障害であることに気づかず、停止をしなかった。

## ●8月26日 NO Paralympics TV放送開始。

8/27国立競技場で初の学校連携観戦。新宿区の中学校2校。

8/28アフガニスタンから選手2名(テコンドー、陸上)が来日。9月2日IPCが「彼らを尊敬し、住まわせる国が見つかるまで」選手村に滞在延期を要請。6日フランスに出国。

8/29山梨県警の応援部隊が宿舎で飲酒後外出、錦糸町で通行人と口論し、手を出す。性風俗に入店した者も。

## ●8月29日 反パラリンピック オンライン集会

発言者 北村小夜 岡崎勝 増田らな

8/31組織委はオリンピックのみ実施する会場の医務室備品:マスク、防護服など500万円分を廃棄していたことを発表。発覚は29日。保管場所がなく、医療品のため譲渡手続きが難しかったという。

9/3菅首相が自民党総裁に不出馬を発表。事実上の首相辞任。

9/5パラリンピック閉会式。新規感染1853人。

## ●9月5日 パラリンピック閉会式 抗議行動

原宿神宮橋から千駄ヶ谷駅・反トーチのコーギリレー

反五輪の会主催/オリンピック・パラリンピック廃止式挙行(千駄ヶ谷駅)

9/6組織委員会が総括会見。来年3月までに決算を出す予定(その後来年6月に延長)。橋本会長は30年の札幌冬季五輪招致に意欲。東京も「近いうちにまたやりたい」。

9/6天皇家が赤坂御所から皇居に引越す。

9/8IOCが総括会見。「ポジティブな反応ばかり」「希望の象徴となつた」。また、北朝鮮が加盟国でありながらIOC提示のCOVID-19対策を拒否し、不参加を選択したことが五輪憲章に反しているとし、22年末までの出場資格停止・支援凍結処分。

9/8墨田区の小学校でオリパラ会場から戻ってきた朝顔鉢にセアカゴケグモ(成体2、卵3)が発見される。どこの会場に置かれていたかは不明。

9/21JR東日本が7月から駅構内の監視カメラで顔認証を作動させていたことを公表し、中断。指名手配、出所者、仮釈放者や「うろうろする」などの者を対象。

9/27天皇の姫の婚約者がアメリカから帰国し、結婚へ。報道が集中。

9/28オリパラの選手・関係者のCOVID-19入院人数の訂正発表。合計5人→25人で、最大は8月31日の11人。

10/1首相官邸のミライトワ、ソメイティのぬいぐるみが撤去。原発の除染土を使った鉢植えも撤去。

10/3 ICIJ(国際調査報道ジャーナリスト連合)が租税回避地に資産隠しをしている政治家等のリスト「パンドラ文書」を公開。内閣官房オリパラ推進本部の平田竹男事務局長の名も含まれる。

10/4岸田新内閣が発足。オリパラ担当大臣に堀内詔子衆議院議員。衆議院は14日に解散し、31日に選挙。堀内大臣(山梨2区)は小選挙区で当選。

10/18北京五輪「聖火」採火式がギリシャ・アテネで行われ、チベットと香港の人権問題の活動家が乱入し、抗議。「聖火」は20日に北京に到着。リレーは国内のみ。

10/29東京都は4月からのCOVID-19の感染者数を訂正。4/3-10/2で4065人を追加。新規感染者が最大人数だった8月13日は5773人を5908人に訂正。

11/2秋の褒賞。五輪・パラのメダリストが受勲。

11/4国際近代5種連合が、東京五輪の馬術女子選手(ドイツ)がムチで馬を叩いたことが「動物虐待」として動物愛護団体の批難を受け、2028年ロス五輪から馬術を除外し、新競技に入れ換えると発表。

11/8北京大会リュージュコースで練習中にポーランド選手が大けが。コースの操作に人為的ミスか。

11/12ヒューマン・ライツ・ウォッチが北京大会スポンサー企業に対し「中国人の人権問題に責任もって対処」を求める会見。

11/18米・バイデン大統領が会見で北京五輪を政府関係者を派遣しない「外交的ボイコット」検討と発言。ウイグル・チベットのジェノサイドが理由。12/6にボイコット決定。12/8にはイギリス、オーストラリア、カナダが追随。

11/25ブラジル・リオ五輪招致でディアク親子に贈賄したとして17年に逮捕されたヌズマン前オリンピック委員会会長に懲役30年の実刑判決。

11/29元JOC副会長の日大・田中英寿理事長が脱税で逮捕。日大病院建設に関わる背任で捜査中。

11/29新語・流行語大賞ベスト10にバッハ会長のあだ名「ぼったくり男爵」入賞。コージ副会長「はったり男爵」は選外。

11月上旬中国女子プロテニスの彭帥選手がSNSで共産党幹部からの性被害を告白した後消息不明に。21日バッハ会長らがオンラインで通話し「元気だ」と発表。WTAは信用せず「引き続き安否不明」として12月1日中国での大会開催凍結を決定。1日IOCは再度彭選手とオンラインで対話をしたと発表。

11/29札幌市が2030年招致に向け開催概要計画を公表。経費概算は「東京大会を参考に簡素化し」900億円程度削減し「公費の投入はない」としている。リュージュは長野五輪のスパイラルで実施を想定。来年1月から市民・道民にアンケート。他の候補都市はソルトレイク、ピレネー・バルセロナ、ウクライナ(詳細未定)。2022年2月北京冬季五輪のIOC総会で30年の開催地を正式決定する予定。

12/1橋本会長をトップに「札幌五輪招致議連」発足。

12/3東京・リオの招致で收賄で捜査中のディアク(父)元国際陸連会長がセネガルの自宅で死去。

12/8IOC理事会。バッハ会長はCOVID-19対策について東京を評価、札幌は「制限なしと期待」。

●12月11日 TeachIn/SpeakOut集会「オリンピック災害を語りつぐ どこでも現場、だれもが当事者」  
札幌招致反対アピールを発表 会場:駒込地域活動センター

2022年2/4～20北京冬季オリンピック、3/4～13パラリンピック。

2024年パリ夏季大会、2026年ミラノ・コルティナ冬季大会、2028年ロス夏季大会、

2030年冬季は未定、2032年ブリスベン夏季大会が予定されている…



パリの抗議デモ